

東北仲間づくり支援活動に参加して（6/6～7/1の内、6/9～6/30の17日間訪問。）

今回私たちにとって参加させてもらえた事は、本当に為になりました。

最初、オリエンテーリングで全国から集まった拡大担当者は宮城県・福島県・岩手県に分かれての活動となりました。

私たちが派遣されたのは岩手県（いわて生協）釜石市（釜石支部）でした。

支部の職員の方々は殆ど車が流されていました。中には未だに、ご家族が見つからない方、親戚が見つからない方もおられる中、私は…なんともお声がかけれなかったのですが、笑顔で接して下さる方々に逆に元気をもらいました。皆さんをもっと元気づけられたら良かったのですが。

訪問活動は、釜石市と大槌町（釜石市の北側）です。特に、釜石市の北側と大槌町の惨状は凄まじいものでした。原爆投下後の広島・長崎を思い出しました。特に大槌町は、津波が役場もろとも襲って、町長さんを含め、多くの役場職員が亡くなられ、一時、行政機能が麻痺してしまったそうです。

活動としては、仮設住宅の一軒一軒を訪問するだけです（お住まいの方は皆さん、家が流されています）。実際にご訪問してお話を聞いていただけるか？と思いましたが、「いつもの活動と同じく、基本のご意見聞きで行こう。」と活動しました。

いわて生協の認知度は高く、釜石、大槌の地域は生協の店舗も無い関係で、「生協＝配達」のイメージをもたれている方は多くおられました。「あの日で時間が止まっている。」「（生協を利用したいけど）そんな気分じゃない…。」「本当にお金がない。」とお話される方が多くおられました。あえて、ご家族構成はお聞きしないで、「何人でお住まいですか」とお聞きしてのご訪問が多くなりました。「これを機会に脱退したい（または減資したい）」という方もおられました。また、「3月11日に生協の商品が流された。」という方、「5階建て団地の3階に住んでいて、お腹まで浸かった。」と言われる方（訪問中に、その方が以前お住まいだった団地を見に行きましたら、3階部分まで何も無くなっていました）。津波で荷物が…人が流れたり……をみておられる方が多かったです。未だに、「遺体安置所」もあって、街の施設には「探し人」の写真や文章が多く貼ってありました。津波後の治安悪化もあり、住民の方々の心の健康も心配です。（他県の警察がかなり多くいました。）

ですが、本当に地域の方々は元気に笑顔で接して下さり、瓦礫撤去にも元気に頑張っておられます。個人的には1年後どのくらい復興したか、（生協の復興も）見に行きたいと思っています。

今回参加メンバーで仲間作り実績をグラフにされていましたが、全体で3位の成約数で終了出来ました。各県の熱いメンバーと交流出来た事も財産になりそうです。ありがとうございました。

拡大推進部 濱田 睦

岩手の釜石に拡大の支援に行って、津波の状況を目の当たりにしました。

テレビで映される映像とは違って、実際はより悲惨なものでした。ただ被災者の方々は、それでも力強く生活しておられました。私も全国の生協の仲間と一緒に生協の利用・加入の相談で仮設住宅を一軒ずつ訪問する

中で、力強く断られ「岩手の人は、ホントにつえ～なあ～」…と、私は涙目で玄関を出てひしっと感じました。このような支援の体験ができたことは、自分の人生の中で再びないと思います(再びあってほしくない)。ありがとうございました。

稲留 四郎